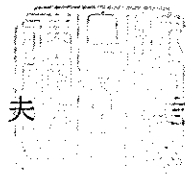


山口病総第 44 号
2013 年 3 月 1 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 総合病院 山口赤十字病院

代表者 名 西 史 夫



2012 年度 ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1 研究・研修事業 2012 年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業

2 期 間 2012 年 4 月 1 日 ～ 2013 年 3 月 31 日

3 報 告 書

I 事業の目的・方法

II 内容・実施経過

III 成果

IV 収支報告

①助成金の主な使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)

②当該助成金に関わる部分の決算書「写」

V 添付書類

①山口赤十字病院ホスピス緩和ケアナース研修プログラム

ナースのためのホスピス緩和ケア研修事業 報告書

平成 25 年3月1日

総合病院 山口赤十字病院

I. 事業の目的・方法

1. 事業の目的

- 1) 緩和ケア(ホスピスケア)の現場を体験することによって、緩和ケア(ホスピスケア)にかかわる看護師に必要な実践能力を身につける。
- 2) 自施設(個人)の課題に沿って必要な情報を得て今後の看護実践に役立てる。

2. 事業の方法

1) 研修場所: 山口赤十字病院 緩和ケア病棟および訪問看護ステーション

2) 研修受け入れ期間及び受け入れ人数: 6名

平成 24 年7月 17 日～平成 25 年2月 22 日

上期(清瀬): 平成 24 年 7 月 17 日～同年 9 月 28 日 研修生2名

下期(神戸): 平成 24 年 11 月5日～平成 25年2月 22 日 研修生4名

3) 研修実施方法:

- (1) 研修受け入れ窓口は看護部とし、研修申し込み、緩和ケア病棟指導者との調整、宿泊等の受け入れを行う。
- (2) 山口赤十字病院緩和ケア病棟に研修担当看護師を配置し、その指導・調整のもと緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術習得のために研修を実施する。
- (3) 山口赤十字病院緩和ケア研修プログラムを検討し、研修生の研修目標との調整をすることにより研修効果が高まるようにする。
- (4) 研修中は指導者による面接、終了時報告会、アンケートにより研修生の反応・意見、目標達成状況を把握する。

II. 内容・実施経過

1. 研修内容

研修生が自己の目的・目標が達成できるように、研修プログラムに沿って研修を進めた。

1) 研修目標

- (1) 緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術・態度を習得できる。
- (2) チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる。
- (3) 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる。
- (4) 自施設における看護ケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる。

2) 研修担当者

病棟研修責任者: 小野芳子

病棟研修担当者: 金子美幸、原淳子、重枝玲子、山縣美佐子

看護部研修担当者: 内田久美子[副看護部長]

研修指導者: 日々の担当看護師

3) 研修プログラム(添付書類「緩和ケア病棟研修プログラム」)

2. 研修内容の経過

1) 研修の経過

(1) 看護部でのオリエンテーション(研修初日)

① 病院全体のオリエンテーション

(病院の理念・組織、看護部の理念・組織、院内教育 等)

② 病院内関連部署の案内をする

(2) 病棟での研修

① オリエンテーションの実施をする

・病棟内オリエンテーションを実施する

・関係部署に挨拶、紹介をする

〈オリエンテーションの内容〉

山口赤十字病院緩和ケア病棟の理念、基本方針

病棟構造

看護業務について

記録方法

オピオイドの取り扱い

研修生看護実務実施基準 等

② 研修の調整をする

研修の目的・目標の確認をし、各個人の研修の目標が達成できるように研修スケジュールを調整する。

当病棟の研修プログラムに沿った3週間スケジュール表を作成し、研修生に提示しスケジュールの調整をする。

③ 患者さんへ直接看護ケアの実施をする

④ 病院内の緩和ケアにかかわる専門職(医師、医療ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師、音楽療法士、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師など)からのレクチャー(希望時)を受ける

⑤ 訪問看護の経験を訪問看護師とともに行動をし、体験する(1日または半日)

⑥ ボランティアを体験する(半日を2回)

⑦ 緩和ケアチームの看護師から話を聞く

⑧ 院内の認定看護師から活動内容の話を聞く(希望時)

⑨ 看護カンファレンス、チームカンファレンスへ参加する

⑩ 病院内・病棟内勉強会へ参加をする(希望時)

⑪ 各行事への参加をする(希望時)

⑫ 週末毎に面接を行い、研修内容の状況の確認と今後の課題を明確にする

⑬ 第3週の木曜日にカンファレンスの時間で3分間スピーチをする

スピーチの内容は、派遣施設のこと、実習で気がついたことや感想などとする

⑭研修最終日に報告会を実施する

出席者：研修生、病棟研修責任者（病棟師長または係長）、病棟研修担当看護師、
副看護部長または看護部長、教育担当看護師長

時間：30 分程度

研修報告内容：

- ・自己の目標の達成度と今後の課題
- ・自施設で生かせること
- ・当病院への要望、病棟に対する意見・アドバイスなど

2) アンケートの実施

財団のアンケートに加え以下の内容を追加しアンケートを行った。

(1) 研修の内容の理解度

緩和ケアの理念、症状マネジメント、家族ケア、チームアプローチ、在宅ホスピス

(2) 研修形態

研修前の対応、寮生活、研修設備・環境

(3) その他の意見・感想・要望

(4) 「ホスピスケアとは何か？自分の言葉で表現して下さい」

Ⅲ. 成果

1. 研修の成果

上期、下期をとおして研修生は研修を修了した。

当院の研修目標に沿って研修生のアンケートをもとに成果として報告する。

研修生のアンケート結果

アンケート対象者 上期(清瀬)2名

下期(神戸)4名

アンケート回収率 100% (有効回答率 100%)

研修生の概要

平均年齢: 33.0 歳

看護師経験年数の平均: 11.5 年

職位: 主任が1名、スタッフ看護師が5名であった

当院の研修目標

1. 緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術・態度を習得できる
2. チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる
3. 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる
4. 自施設におけるケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる

1) アンケート結果1: 個人目標の達成度について

研修生の主な個人目標をあげると以下の内容であった。

看護実践に関するもの

- ・ 看護師の知識・技術・姿勢を身につける
- ・ 緩和ケアにおけるケア方法・技術を学ぶ
- ・ 傾聴の方法を学ぶ
- ・ 患者・家族とのコミュニケーションの方法を学ぶ
- ・ 症状マネジメントの実際(疼痛、鎮静)を学ぶ
- ・ エンゼルケア技術を学ぶ
- ・ 緩和ケア病棟におけるインフォームドコンセントの方法を学ぶ
- ・ 看護ケアの工夫や問題解決方法を知る
- ・ 終末期患者やその家族とどのように向き合っているか、向き合うとはどのようなことかを学ぶ
- ・ 緩和ケア病棟の患者・家族のニーズを知り、アセスメントと個別性のあるケアを考える
- ・ 遺族の方へのアプローチ方法
- ・ 遺族ケアの活動と実際を学ぶ
- ・ 在宅での緩和ケアの実際を学びどのようなサポートが必要か考える
- ・ 地域との連携や在宅で最期を迎えられる方を看護師としてどのようにサポートしているか学ぶ

チーム医療に関するもの

- ・ 多職種との連携方法やチームアプローチの方法を学ぶ
- ・ チームのかかわりの実際と看護師の役割を学ぶ
- ・ チームアプローチの実際を知る
- ・ 病棟カンファレンスの実際、情報共有の方法を学ぶ
- ・ チームの中の看護師の役割を考える
- ・ 日々のケアを通して看護師としての役割・責務を学ぶ
- ・ 院内での他科との連携を知る
- ・ ボランティアの役割と活動状況を学ぶ
- ・ 多職種との連携や介入・影響を知る
- ・ カンファレンスの方法を学ぶ

病棟管理に関するもの

- ・ スタッフ教育に必要なことを見出す
- ・ 施設の概要と施設の中での緩和ケアの役割を知る
- ・ 看護師間のケアの方法、モチベーション維持の実際を知る

その他

- ・ 倫理的ジレンマの対応方法を知る
- ・ 緩和ケア病棟勤務に自信がつき、前向きな気持ちになれる
- ・ 講義での学びと実際を具体的に結びつけることができる
- ・ 実習を通して緩和ケアの実践のための具体的対策を考える力が持てる
- ・ 在宅における施設間・地域・医療機関の連携について知る

これらの研修生の個人目標・課題に対しての達成度を、財団のアンケートをもとに、評価基準を《a:十分達成＝4ポイント、b:達成＝3ポイント、c:まあまあ＝2ポイント、d:不十分＝1ポイントとして》点数化し評価した。

表1. 個人目標・課題に対しての個人の評価の平均点と人数

ポイント	4.0	3.6	3.2	2.4	平均
人数	2	1	2	1	3.4

結果と考察

平均値は 3.4 ポイントで、目標・課題は達成できたと考える。

「達成度a:十分達成された目標評価」は 12 項目、「達成度b:達成された目標評価」は 13 項目、「達成度c:まあまあと評価された目標評価」は 2 項目、「達成度d:不十分と評価されている項目」は 1 項目であった。全体的に目標・課題達成評価は高く、達成できたと考えられる。c評価となった理由は自己の目標設定が高かったためと研修生が振り返っていた。d評価となった理由は、目標が大きく具体性にかけ評価ができなかったためであった。

2) アンケート結果2:研修内容の理解度について

表2. 研修内容の理解度

	項 目	平均値
1	緩和ケアの理念	4.3
2	症状マネジメント	4.2
3	家族ケア	4.2
4	チームアプローチ	4.0
5	在宅ホスピス	3.8
6	自己の課題	4.5
平 均		4.2

5段階評価(5:よく理解ができた 1:理解できない)

結果と考察

理解度の平均は、4.2 と高い結果であった。

しかし、在宅ホスピスケアに関しては 3.8 と低い結果であった。当院の訪問看護の現状が、在宅緩和ケアを対象にした利用者が少ないことも評価が低くなった原因と考える。

3) アンケート結果3:感想・今後の課題などについて

表3. 感想・今後の課題などのキーワードと人数

キーワード	人数
チームアプローチ(チーム医療)	5
カンファレンス	5
看護の振り返り	3
今後の緩和ケアへのとりくみ方	3
患者の思いに寄り添う	3
コミュニケーション	3
症状マネジメント	3
家族ケア	2
緩和ケアの特徴	2
教育	2
いのちとの向き合い	2
ケアの本質	2
スタッフの態度・かかわり方	2
病棟運営	2
退院支援	2
遺族ケア	2
死生観	1
看護記録	1
緩和ケアチーム	1
倫理的問題	1
在宅ケア	1

4) アンケート結果4:「ホスピスケアとは？あなたの言葉で表現すると・・・」の内容

- ① 看護の原点
- ② 最期迄その人らしく生きられるよう寄りそい見守ること。
- ③ 過ごしたい生活を支える
- ④ 環境づくり
- ⑤ 思いやり、寄りそうこと
- ⑥ 最期までその人らしく生きるためのケアであり、相互に支え合っている喜びを感じられるケア

これらのアンケート1)～4)の結果から、研修目標1)～4)は達成できたと考える。

2. 当施設の受け入れについての評価

1) 研修運営について

表4. 研修運営について 単位:人 ()内は%

		大変良い	良い	まあまあ	不十分
1	研修プログラム	4(66.7)	2(33.3)	0(0)	0(0)
2	受け入れ体制	5(83.3)	1(16.7)	0(0)	0(0)
3	指導体制	4(66.7)	1(16.7)	1(16.7)	0(0)

(1) 研修プログラムについて

研修生の評価は、「大変良い」が 66.7%、「良い」が 33.3%であった。「まあまあ」・「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想として、①病棟のことだけでなく、他職種の役割や実際の動きなど詳しく説明してもらえたので、具体的に知ることができた(2)、②講義や訪問看護、外来など多くの経験ができた(3)、③遺族会に参加できず残念だった、などが書かれていた。これらのことからプログラム内容は研修生が満足できる内容であったと評価する。③については、遺族会は2か月に1回の実施のためスケジュール調整ができなかった。

(2) 受け入れ体制について

研修生の評価は「大変良い」が 83.3%、「良い」が 16.7%であった。「まあまあ」・「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想として、①スタッフのみなさんが快く受け入れて下さり、何に対しても配慮して下さり嬉しく思った(2)、②研修担当者をはじめ、病棟・他部門の方も丁寧にかかわってもらえた、③その日ごとにきちんと担当ナースが決められており、安心して実習を受けることができた、などが書かれていた。これらのことからプログラム内容は研修生が満足できる内容であったと評価する。

(3) 指導体制について

研修生の評価は「大変良い」が 66.7%、「良い」が 16.7%、「まあまあ」が 16.7%であり、「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想として、①その時々で状況に応じて指導を受けることができた、②どのスタッフも親切に丁寧に指導してもらえた(2)、③その都度、実習目標が達成できているのか確認してもらえて助かった、などが書かれていた。

これらのことから個人差はあるが、プログラム内容は研修生が概ね満足できる内容であったと評価する。

2) 研修形態について

表5. 研修形態について（単位：人（ ）内は％）

		大変良い	良い	まあまあ	不十分
1	研修前の対応	3(50.0)	3(50.0)	0(10.0)	0(0)
2	寮の生活環境面	1(16.7)	4(66.7)	1(16.7)	0(0)
3	実習設備・環境	4(66.7)	2(33.3)	0(0)	0(0)

(1) 研修前の対応について

研修生の評価は、「大変良い」が 50.0%、「良い」が 50.0%、「まあまあ」・「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想は、①寮のことや普段の生活のことなど心配してもらえ、とても親切に対応してもらえた(2)、②事前に詳しい資料をもらえてイメージができ準備する際に参考になった(2)、などが書かれていた。

(2) 寮の生活環境面について

研修生の評価は、「大変良い」が 16.7%、「良い」が 66.7%、「まあまあ」が 16.7%であった。「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想は、生活用品が整っており、自転車の貸し出しもあり、買い物や出かける際に便利であった(3)、などが書かれていた。

(3) 実習設備・環境について(図書・記録をする部屋など)

研修生の評価は、「大変良い」が 66.7%、「良い」が 33.3%、「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想は、①パワーポイントを使用してのミニレクチャーや記録が必要な時のスペースがあってよかった、②病棟内の図書も見ることができた、③プリンターが設置してあり助かった、などが書かれていた。

3. 総評

1) 研修の内容は現状で概ね良いと評価できる。

2) 平成16年から9年間にわたり 101 人の研修生に実習に来ていただきました。研修生とかかわらせていただいた当院の看護師も多く学びを得ることができました。研修生には緩和ケア病棟の実習を通して、「ホスピスマインドの種」を持って帰っていただきました。これからは、当院で研修をされた方々のそれぞれの現場で「ホスピスマインドの種」が芽を出し、花が咲いていくことを願っています。長い間ありがとうございました。

I. 研修目的

1. 緩和ケア（ホスピスケア）の現場を体験することによって、緩和ケア（ホスピスケア）に関わる看護師に必要な実践能力を身につける
2. 自施設（個人）の課題に沿って必要な情報を得て今後の看護実践に役立てる

II. 研修目標

1. 緩和ケア（ホスピスケア）に必要な知識・技術・態度を習得できる
2. チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる
3. 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる
4. 自施設におけるケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる

III. 研修担当者：小野芳子 [責任者]

金子美幸、重枝玲子、山縣美佐子、原 淳子 [緩和ケア病棟]

看護部研修受け入れ担当者 内田久美子 [看護副部長]

※病院研修受入責任者 三井成子 [看護部長]

IV. 研修指導者：日々の担当看護師

V. 研修プログラム（別紙スケジュール表あり）

第1週：研修担当者と研修の目的・目標、課題の明確化をする。

緩和ケア病棟の特徴と1日の流れを理解する。

担当看護師と一緒に行動し緩和ケアの実際を体験する。

当院における緩和医療の実際について知る。（医師の小講義）

医師の回診に同行し、インフォームド・コンセントの実際を知る。

実習中に継続してかかわりたい患者（受け持ち患者）を決定する。

次週からの実習計画の確認をする。

第2週：緩和ケアの理念を目指し、実践している看護の実際を学ぶ。

受け持ち患者を中心に、担当看護師と一緒にケアを体験する。

担当看護師の指導を受けながら、症状マネジメントの実際を体験する。

緩和ケアチーム活動の実際を知る。

ホスピスボランティア活動を体験する。（半日2回）

中間面接を行い前半の実習の評価と後半の実習の目標・課題を明確にする。

第3週：緩和ケア病棟での看護実践を通して、講義の学びを深めることができる。

緩和ケア外来実習を行い、受診される対象の現状を知る。

訪問看護実習を行い、在宅ホスピスケアの実際を知る。

チームカンファレンスへの参加や他職種の小講義（希望者のみ）を受け、他職種との連携を理解しチームアプローチについて学ぶ。

報告会・面接を通して研修の評価と今後の課題を明確にする。

VI. 研修記録

1. 実習前に申し込み用紙を記入し提出する。

申し込み用紙に記載してもらう内容（研修の目的・目標、簡単な職歴）

2. 実習記録は所定の様式にワープロまたはパソコンを使用して記録する。

研修担当者・師長・その日の担当看護師（またはかかわった他職種）がサインをする。

VII. 研修評価とまとめ

1. 実習最終日には報告会を行なう。（研修担当看護師・病棟師長・看護部研修担当が参加）
2. 実習終了後実習の学びのレポートを提出する。（財団に提出するものと同じ様式でよい）

VIII. その他

1. 夜勤実習を希望の場合は3週目に行い、21時までに実習終了するよう時間調整する。
2. 多職種(医療ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師、音楽療法士、緩和ケアチームの看護師)の小講義は希望時のみとする。
3. 実習内容…注射は全て禁止する。（持続皮下注射の早送りも不可）
4. 看護記録の書き込みは、担当看護師の指導のもと受け持ち患者さんのみ許可とする
5. 研修期間中の勉強会や各種行事への参加は研修生の自由とする。

平成 24 年度 緩和ケアナース養成研修 3 週間スケジュール表

研修生 ○○ ○○さん

△△ △△さん

月 日 (月) ~ 月 日 (金)

研修担当者 日赤 花子

月 日	A M	P M	
月 日 (月)	看護部オリエンテーション 病棟オリエンテーション	患者紹介	
日 (火)	回診に同行		
日 (水)		13:30 栄養士の話	
日 (木)	音楽療法士の話	14:00 医師の話	
日 (金)			ミーティング 受持ち患者決定
日 (土)			
日 (日)			
日 (月)	ボランティアコーディネーター の話		
日 (火)	緩和ケア外来	ボランティア (1 回目)	
日 (水)		看護師の役割について (緩和ケア認定看護師)	
日 (木)	PCT の話	ボランティア (2 回目)	
日 (金)	訪問看護 (1 人目)		ミーティング
日 (土)			
日 (日)			
日 (月)	訪問看護 (2 人目)		
日 (火)	11:00 薬剤師の話		
日 (水)		15:00 MSW の話	
日 (木)	緩和ケアチーム看護師の話	3 分間スピーチ	
日 (金)	10:30 報告会		

* 緩和ケアチームメンバーのレクチャーは 30~60 分程度とする

* 訪問看護実習の前日までに目標・目的を記載し訪問看護ステーションに行き調整する (研修生)
実習記録を翌日に提出する